

平成25年度決算特別委員会速記録 (第2号)

平成26年9月24日(水) 午後1時開会

場 所 第3・4委員会室

○委員長(林田和雄君) 次に、錦織委員。

○委員(錦織淳二君) 総務費では、(仮称)文化芸術ホールについてお伺いします。

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が決定してから1年がたちました。開幕は2020年7月24日金曜日で、カウントダウンは既に6年を切り、いよいよ準備を本格化する時期に入っています。

第二次世界大戦以降で夏季大会を2度開催する都市は、1948年、2012年のロンドンと、1964年、2020年予定の東京しかなく、恐らく東京での開催は最後になるのではないかとされており、区の文化・芸術振興においても千載一遇のチャンスではないでしょうか。

オリンピック憲章では、スポーツを文化と教育と融合させることをオリムピズムの目指すものとしており、大会開催時には、スポーツ競技だけではなく、並行して、選手村が開村している間は複数の文化イベントのプログラムを開催することが義務づけられています。トライアスロン競技会場予定区かつ大会の中心地として、東京大会をチャンスと捉えた文化芸術振興について、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

○国際化・文化芸術担当課長(加東順也君) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における文化プログラムにつきましては、いまだ東京都から具体的な計画は示されておりませんが、さきのロンドンオリンピックの際は、開催前の約4年間に、約200億円の規模で実施され、大会期間中は約80億円の規模で実施をされています。ロンドンオリンピックにおけるこうした取り組みに対しては、世界的にも評価が高かったと聞いております。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、開催の中心地となる港区にとりまして、区の魅力を国内外に発信する最大の好機であるとともに、文化芸術振興においてもまたとない好機として捉えまして、文化プログラムへの対応に取り組んでまいります。

○委員(錦織淳二君) そのとおりです。2012年のロンドンオリンピック・パラリンピック組織委員会は、開催前の4年間でカルチュアール・オリムピアドとして、英国全土1,000カ所ですべて18万件近い文化イベントを開き、芸術家を含む4,340万人が参加しています。

集大成の大会本番の前後には特別なプログラムが用意され、例えば37カ国の劇団がそれぞれの言語でシェイクスピア作品を英国各地で連続上演する演劇祭がありました。ロンドン市では、

1945年以来の道路閉鎖をし、ロンドンで最も交通量の多いピカデリーサーカス広場では、空中ブランコなどのサーカスパフォーマンスも展開され、これには17カ国240名のアーティストが参加しています。

2020年東京大会においても、舛添都知事は、文化面でも史上最高の大会にする旨を述べられています。区としてはどのような形で文化プログラムへの協力をお考えでしょうか。

○国際化・文化芸術担当課長（加末順也君） 文化プログラムにつきましては、繰り返しになりますけれども、いまだ東京都から具体的な計画が示されておられません。ですので、明確なことは申し上げられないのが実情でございます。

一方、港区には一流のコンサートホールや劇場、美術館、博物館など、文化施設が多数集積をしております。こうした状況を踏まえまして、区内で文化芸術活動に携わるさまざまな団体と区で、分野を横断したつながりの場として、昨年度、文化芸術ネットワーク会議を立ち上げました。

この会議では、第1回目の会議から文化プログラムに着目し、専門家や東京都から直接お話を伺うとともに、意見交換を行っております。また、会議の中で、ロンドンオリンピックの文化プログラムでは、芸術家、子どもたち、若者が主役となり、公園やまちなかで多彩な文化芸術活動が行われたことが大きな特徴であったというお話を聞いております。

こうしたことを踏まえながら、今後、文化芸術ネットワーク会議のメンバーとともに、同プログラムへの対応について検討を重ねてまいります。

○委員（錦織淳二君） もし2020年東京大会を最後として、東京開催が将来にわたってないとするれば、世界中の著名なアーティストたちが東京で一堂に会するチャンスも最後になってしまうかもしれませんので、ぜひ文化芸術ネットワーク会議のメンバーの方々とは十分にご検討をお願いします。

次に、文化芸術ホール整備検討基礎調査の報告書には、文化芸術ホールの整備にあたっては、6年後の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて実施される文化プログラムについても視野に入れることが重要である旨の記載があります。

まずは、文化芸術ホールの建設を是が非でも東京大会開催までに間に合わせる必要があると考えますが、その点はいかがお考えでしょうか。

○国際化・文化芸術担当課長（加末順也君） （仮称）文化芸術ホールにつきましては、浜松町二丁目C地区再開発準備組合に参加し、再開発事業の中で整備していくこととしております。このため、文化芸術ホールの整備スケジュールは、C地区の再開発事業全体のスケジュールに基づくこととなります。

再開発準備組合によりますと、本来7年程度必要な工期を、現在、これ以上圧縮することは困難というところまで圧縮はしているが、それであっても、2020年夏の東京オリンピック・パラリ

ンピック競技大会には間に合わないと聞いております。

ロンドンオリンピックの文化プログラムにつきましては、繰り返しになりますが、大会開催前の約4年間にわたり継続的に、地域の中で、芸術家と市民が主役となり、多彩な文化芸術活動に取り組んだということでございます。

そうした地に足のついた取り組みによりまして、区内の各地域に文化芸術が根づくものと考えております。

○委員（錦織淳二君） 工期が間に合わないとすれば、報告書に記載がある文化プログラムについても視野に入れることが重要であるという文面の意味がなくなってしまいます。間に合わないというのではなく、間に合わすという考え方に切りかえられないのでしょうか。

前回の1964年東京大会においても、東海道新幹線開業、首都高速道路開通だけではなく、そのほかにも、間に合わないと言われた地下鉄やホテル建設なども、短期間の工事で全て間に合わせ、東京大会の成功につなげています。そして、文化芸術ホールを東京大会に間に合わせなくてはならない理由が、大きな理由がもう一つあります。

今まで開催された世界各国の大会の後には必ず不況が伴っており、成長率が開催年よりその翌年が上昇したのは、1996年のアトランタ大会だけになっています。

今の日本の財政も、1964年に開催された東京大会が大きな転機となり、東京大会に向けて活発に行われていた公共事業がパッタリと途絶えて、翌年の1965年には、40年不況と呼ばれる大型不況に突入しています。そこで、景気対策として財政出動が必要となり、同年には、ついに戦後初の国債が発行され、現在の日本の累積債務の山は、東京大会の後始末がスタート地点になっています。

つまり、2020年東京大会後に文化芸術ホールができたとしたら、ホールの運営自体が非常に難しくなってしまいます。それでなくても、短期的な経済情勢だけではなく、中長期的な少子高齢化など、市場の縮小を引き起こす可能性がある厳しい状況や舞台芸術に対する多くの無関心層の存在など、ホールの運営は非常に難しいと言われております。

例えばサントリーホールは、森ビルが所有し、公益財団法人サントリー芸術財団が運営しているのですが、専門事業者にホールの管理運営を任せたとしても、同ホールをはじめ、運営が順調にしているところはほとんどないと聞いております。

また、文化施設である劇場ホールは、耐用年数までの運営を考えた場合、建設に要する費用の3倍程度の総経費が必要であると言われておりますが、オリンピック後の不況下におけるホールの運営と維持管理について、いかがお考えでしょうか。

○国際化・文化芸術担当課長（加末順也君） オリンピック開催前の4年間にわたる文化プログラムの実施が、区内の各地域に文化芸術を根づかせ、その結果、文化芸術ホールは多くの区民

の方々に利用していただける施設になると考えております。また、文化芸術ホールの運営におきましては、できる限り多くの区民の方々が身近に文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会を提供することが重要と認識をしております。

このため、内容や料金等に配慮するとともに、文化芸術への関心が低い区民の方々にも興味を持っていただけますよう、伝統芸能とジャズ、邦楽とストリートダンスといったような、さまざまなコラボレーションを取り入れることを事業の方向性としております。

こうした開設前、開設後の地道な取り組みによりまして、文化芸術ホールは多くの区民の方々に親しまれ、愛される施設となり、結果として、一定の収益を確実に確保できるものと考えております。

これとともに、効率的、効果的な維持管理による費用の軽減によりまして、経済情勢の変動による影響が最小のものとなりますよう、専門家の知見も踏まえながら、ホールの運営について検討を進めてまいります。

○委員（錦織淳二君） 文化芸術ホールの維持管理については、ほかの施設とは違い、運営も難しければ多額の費用がかかり、結局は区民の多くの血税を使うことになるので、ぜひ専門家を交えてしっかりとした対応策をご検討ください。

同じく、報告書には、ジャンルを固定せず、区民、プロの利用にゆえ得る、多機能で高機能な、大600席程度、小100席程度の2つのホールを整備し、大ホールについては、伝統芸能の公演に必要な仮設脇花道と小迫を設置すると記載がありますが、専門家の利用も十分に対応できるミュージカル、バレエ公演等となれば、オーケストラピットは必須条件となるはずですし、同じく専門家の利用も十分に対応できる歌舞伎でつくる花道が、客席をかみしにも二分するものではなく、壁面沿いに設置する脇花道になれば、片方が壁面にぶつかるため、見せ場であるにもかかわらず、大きな振りもできなければ、役者同士がすれ違う演技も難しくなってしまいます。また、ミュージカルや歌舞伎でよく演出する、宙乗り装置もないようです。

つまり、専門家の利用も十分に対応できる演出機能を備えた演劇、ダンス、ミュージカル、バレエ、歌舞伎、日本舞踊、能、狂言全てが可能な舞台をつくること自体が難しいことで、仮にできたとしても、それにかかる建設費及び維持管理費が膨大な額になると思います。

つきましては、ホール運営を考えた場合、多目的ホールではなく、ある程度の専門性を持ったホールにすべきかと思いますが、その点はいかがお考えでしょうか。

○国際化・文化芸術担当課長（加末順也君） 文化芸術ホールは、整備の方針といたしまして、あらゆるジャンルに高いレベルに対応できる、多機能、高機能の600席程度のホールを整備し、ここに音響反射板、可動式脇花道、小迫を設置するとともに、多機能、高機能で平土間形式の100人収容程度のホールを整備するとしております。

この中で、あらゆるジャンルに高いレベルで対応できるとしてありますが、これは、オーケストラピットや宙乗り装置が必要となるような、大規模で本格的なミュージカル、バレエ、歌舞伎等の上演を想定したものではありません。

ホールの規模が600席程度であることを踏まえ、例えば、プロの芸術家による著名なミュージカル曲を集めたコンサートでありますとか、歌舞伎、能、舞踊など、質が高く誰もが楽しめるさまざまなジャンルの上演を想定したものでございます。

このため、設備は比較的シンプルではありますが、音響等はプロの使用にもたえ得る、専門性を有したホールとして整備してまいります。

○委員（錦織淳二君） 今のご説明では、報告書に記載があるような専門家の利用も十分に対応できる演出機能を備えたホールとは言わないのではないのでしょうか。

いずれにしても、文化プログラムに対応できる施設としては、やはり文化芸術ホールがベストなのですが、そのほか、12月完成の新スポーツセンター及び区内の既存ホールを使用するとしても、人気のあるアーティストをお迎えするためには、東京都からまだ文化プログラムの具体的な計画が示されていないうちから都に根回しをする等、早目に招聘活動をすれば、小・中学生が夢を膨らませ、区民が喜ぶような文化プログラムが組める可能性が高くなり、それらによる経済効果も大きくなると思いますが、その点はいかがお考えでしょうか。

○国際化・文化芸術担当課長（加末順也君） 文化プログラムにつきましては、委員ご指摘の芸術家の招聘をはじめ、その内容が文化芸術に対する区民の関心を高めるとともに、区民に喜んでいただけるものとなりますよう、東京都や文化芸術ネットワーク会議のメンバーとともに検討を進めてまいります。

○委員（錦織淳二君） 本会議で質問させていただきましたように、東京都の予測によれば、オリンピック期間中1日当たりの会場来場者数は最大92万人と予測されており、これに開催日数の17日に乗じると、1,564万人の観戦客が都心と臨海地域を移動すると想定されます。

この観戦客を1人でも多く区内に取り込み、仮に1日92万人の観戦客が港区内で1人1万円使っていただくだけで、1日につき92億円、開催期間中で1,564億円になり、港区の年間予算に匹敵する額が17日間で区内を潤すこととなります。これにプラスして、パラリンピック観戦客13日間の消費分も区内に誘導できれば、それが回り回って数年分のホールの維持管理費が獲得できる可能性も考えられます。

つきましては、今のうちから区内施設で催す文化プログラムについて戦略を立て、観光協会、商店会、観光関連事業者、経済団体、各国大使館その他、一丸となって頑張れば、東京大会におけるさまざまな文化プログラムの恩恵も区に取り込むことができますが、区としてはいかがお考えでしょうか。

○国際化・文化芸術担当課長(加末順也君) 文化プログラムに関しまして、東京都、区内の文化芸術団体、さらには、委員ご指摘の観光協会、商店会、各国大使館など、さまざまな主体と連携いたしまして、今後継続的に取り組むことにより、さまざまな主体との緊密な関係の構築、また、文化芸術活動に関するさまざまなノウハウの蓄積を図ってまいります。そして、これらを文化芸術ホールの運営に十分活用してまいりたいと考えております。

今回委員からいただきましたご指摘も踏まえ、東京都や区内の関係者と連携し、多くの区民の方々に喜んでいただくとともに、区外からも多くの方々に港区を訪れていただける文化プログラムとなりますよう、検討を重ねてまいります。

また、開設後の文化芸術ホールが区民に親しまれ、愛される施設となりますよう取り組んでまいります。

○委員(錦織淳二君) いずれにしても、2020年東京大会で区民が歓迎し、かつ経済効果をもたらすような文化プログラムを少しでも多く持ってくるためには、文化芸術ホールの完成が絶対条件ではないでしょうか。

また、新スポーツセンターを練習場として、著名なアスリートを招聘し、その練習風景を見学できることは、小・中学生や区民にとってすばらしい経験になるとともに、区により多くの観戦客が訪れることになるので、経済効果もより大きくなります。

ぜひ2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会という最大のチャンスを逃さないようにしていただきたいと思います。

以上で終わります。

○委員長(林田和雄君) 錦織委員の発言は終わりました。

.....